

平成25年度病害虫発生予察注意報第6号

平成26年2月4日
愛知県

作物名：キュウリ（施設）

病害虫名：ミナミキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発令の根拠

(1) 1月下旬に実施した巡回調査の結果、キュウリにおけるミナミキイロアザミウマの寄生葉率が9.3%（平成24年2.0%、昨年2.4%）、発生ほ場率が87.5%（平成24年38.0%、昨年37.5%）で、いずれも過去10年と比較して最も高かった。

- 4 防除上注意すべき事項

- (1) 青色の粘着板などを利用して本種の発生状況をよく観察し、早期発見に努める。
- (2) 発生を認めたら、下表を参考に早期に防除を行う。
- (3) 本種がキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底する。また、キュウリ黄化えそ病の発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取って適切に処分する。
- (4) 本種は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (5) 天敵を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定する。

表 キュウリのミナミキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 /使用回数	系統
カスケード乳剤	2000～4000倍	前日/4回	A
コテツフロアブル	2000倍	前日/3回	B
モベントフロアブル	2000倍	前日/3回	C
モスピラン水溶剤	2000～4000倍	前日/3回	D
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	前日/2回	D
アフーム乳剤	2000倍	前日/2回	E
ハチハチ乳剤	1000～2000倍	前日/2回	F
プレオフロアブル	1000倍	前日/2回	G
ディアナSC	2500～5000倍	前日/2回	H
ボタニガード水和剤	1000倍	発生初期/ー	I

注) 系統：A：脱皮阻害剤、B：ピロール、C：環状ケトエノール、D：ネオニコチノイド、
E：マクロライド、F：フェノキシベンジルアミド、G：プロペニルオキシフェニル、
H：スピノシン、I：微生物農薬

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

- 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話：0561-62-0085 内線471